

令和6年度 第1回運営協議会 記録

令和6年7月9日(火)

10:00~本校会議室にて

出席者

- ・立川 仁典 (横浜市立大学 教授)
- ・遠藤 五郎 (本牧緑ヶ丘町内会 会計)
- ・石井 清 (麦田町町内会 会長)
- ・池田 加津男 (牧陵会 相談役)
- ・大竹 幸代 (後援三徳会 理事長)

本校より ・坂元(校長) ・村井(副校長) ・高木(教頭) ・田口(運営 G) ・亀井(情報 G)
・吉村(研究 G) ・服部(生徒 G) ・松井(安全 G) ・田村(広報 G)
記録 ・稲葉(運営 G) ・内山(運営 G)

欠席者

- ・新井 立夫 (文教大学 教授)
- ・高橋 秀吉 (横浜市立本牧中学校 校長)
- ・増田 宣明 (横浜市立仲尾台中学校 校長)
- ・佐久間 弘子 (本牧緑ヶ丘町内会 会長)

- ・校長挨拶
- ・各委員自己紹介
- ・職員自己紹介
- ・運営協議会会長選出 立川先生にお願いいただく(拍手で承認)

- ・スクールポリシーについて

校長：今年度から学力向上進学重点校に指定された。また、本年はSSHの3年目で中間評価の年になる。スクールポリシーについては本来事前にお示しし、意見をいただくところであるが今年度は時間的制約もあり、4月から運営Gで検討したものを県に提出した。委員の意見をうかがって、次年度以降、改善していきたいと思う。

グラデュエーション・ポリシーについては校内外の人にわかりやすいよう3つにしぼった。

スクールポリシーの(1)は学力向上進学重点校を受けてのもの。(2)は確かな学力を支え、豊かにするためのもの、(3)はリーダーの資質として必要なものとして策定した。

カリキュラムポリシーについては資料に記載のとおりだが、この後の各グループからの学校目標の説明のなかでも触れる。

アドミッションポリシーについても、入学者に求めるものをわかりやすく記載した。

・グランドデザインについて

校長：さきほどのスクールポリシーを在校生およびその保護者、入学希望者およびその保護者にとって、目で見てわかりやすいように整理した。スクール・ミッションは県教委から本校に課せられたものである。カリキュラムポリシーについては、様々な取り組みにおいて目指すものを「探究力」、「挑戦」、「対話」、「他者尊重」という4つのキーワードで表現した。

・学校教育計画について

校長：今年度より新たに令和9年度までの4年間の学校教育計画を策定した。本日の説明は割愛するが、資料13ページに記載されているので目を通していただきたい。

・各グループより学校評価報告書の目標説明

運営 G：難関大学に進学するという表面的な指導ではなく、進路説明会や面談を通して生徒・保護者と協力しながら進路と向き合う体制を作りたい。全職員が参加できる「緑の意見交換会」を実施しながら、職員全体での学校運営を進めていきたい。

情報 G：授業時間の確保とシステムやソフトウェアの導入で業務を効率化し、教員が生徒と向き合う時間の確保を目指している。

研究 G：SSH3年目で中間評価の年になる。今年は、生徒の発信力の育成を目指すとともに、取り組みに対する評価方法の確立に力を入れている。

生徒 G：学校行事等は生徒自身での運営を基本としている。生徒たちが担任や顧問、関係する先生方との意見交換や折衝を通して、企画をよりよく運営していく能力を養っていきたい。

安全 G：多様な生徒が在籍し、慎重に扱うべき事柄が増える一方で、若く、経験の浅い教員が増えている。ケース会議等を開催する中で、経験を通して教員の対応力を育成することを目指した。また、複数の教員で相談の場を設けて課題を共有することが、ごく普通の取り組みとなるようにして行きたい。

広報 G：学校説明会などで本校の姿を伝えていきたい。また夏祭り等、地域とのつながりを継続しながら、取り組みを広げていきたい。

・委員からの意見、感想など

○理数教育推進校の指定は来年度以降どうなるのか？

校長：理数教育推進校は今年度で終了だが、目指す内容としてはSSHの取り組みと重なるところが多いので、来年度以降はSSHの取り組みをより充実させていくことになる。

- ・今の生徒は、昔の生徒より手厚い指導があって幸せだと思う。地域の課題としては少子高齢化が顕著である。これを課題研究の題材として対応策の提案や地域の検討会への高校生の参加などができたらいいのではないかな。
- ・少し本題から外れるが、学びの奨励基金について、今まで10名くらいに支援した。活用方法についての提案や意見があればいただきたい。
- ・地域とのつながりを深めていきたいという意見は、生徒によるSSH運営会からも出ている。課題の解決策を提示するのは経験の浅い高校生にとっては難しいが、ヒントを与えてもらうなどすれば一緒に考えることなどはできるかもしれない。学びの奨励基金については、スタディツアーなどへも支援ができるようになればありがたい。
- ・地域とのつながりでは吹奏楽部のコンサートなど住民はとても楽しみにしていただいている。自身の経験から意見を言わせてもらおうと、理系的な取り組みだけでなく、もっと英語力を磨くべきだと思う。社会に出れば英語での意見交換などが必要になるし、語学力が高まることで視野も広がる。
- ・(英語の教員として)英語が好きだという生徒が多い印象である。論理的に伝える力や理解する力を育てるための取り組みを行っている。論理的にという点では探究の取り組みに通じる部分がある。
- ・学校も運営方針を自ら計画し点検・反省、改善策の提案を行わなければならない状況にかつて自分が仕事をしていたときにPDCAを回せと言われたことを思い出した。
- ・今の子どもたちが、意見を出しあって協力することなどに慣れているのはこのような取り組みのおかげなのだと思う。
- ・大学生でも教員の話はあまり聞かないが、先輩の話は聞くということはよくある。

・次回以降の運営協議会について

副校長：次回はSSHなどの取り組みに関する特色部会と学校運営に関する評価部会に分かれてお話をいただくことになるのでご予定いただきたい。

・閉会のあいさつ

校長：ご参加いただきありがとうございました。今回は日程が合わない委員の方が複数いらっしゃる中開催し恐縮である。次回は多くの委員が参加できるように日程調整をしたい。またいつでもお気づきのことがあれば学校にお伝えいただけるとありがたい。